



令和3年10月19日
海上保安庁

海保が陸上における都市型搜索救助訓練実施 ～全国から海上保安庁の国際緊急援助隊登録隊員が集結～

海上保安庁では、国際緊急援助隊登録隊員の対応能力向上を図るため、特殊救難隊21名及び全国から機動救難士10名を集結させ、10月21日から24日までの間、横浜海上防災基地において都市型搜索救助訓練を開催します。

※都市型搜索救助とは、瓦礫の下に取り残された生存者に対する位置特定、閉鎖空間からの救出活動、生存者の容体を安定化するための応急処置を柱とする一連の救命・救出活動を指します。

1 実施日時等

実施日時：令和3年10月21日（木）から24日（日）までの間

実施場所：第三管区海上保安本部 横浜海上保安部 横浜海上防災基地
（神奈川県横浜市中区新港1丁目2番1号）

参加隊員：第三管区海上保安本部 羽田特殊救難基地隊員 21名
航空基地機動救難士（一～十一管区（三、四、六管区除く））10名

訓練内容

21日：倒壊の危険性がある建物の評価及び瓦礫の持ち上げ訓練

22日：倒壊の危険性がある建物の安定化及び構造物等の破壊・除去訓練

23日：倒壊の危険性がある建物の安定化及び構造物等の破壊・除去訓練

24日：補完訓練

<訓練の様子>



2 経緯

海上保安庁では、国際緊急援助隊の派遣に関する法律に基づき、海外の地域における大規模な災害の発生等に際し、関係省庁等で構成される救助チームの一員として、国際緊急援助活動を行っており、これまで計12回、

のべ148名の派遣実績があります。直近では、平成29年のメキシコ地震に派遣されております。

本訓練は海上保安庁が単独で実施するものであり、地震等により生じた倒壊の危険性がある建物における被災者の捜索、救出及び安全な場所への搬送のために必要な各種救助訓練となります。